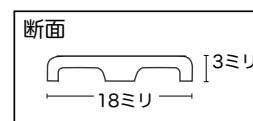
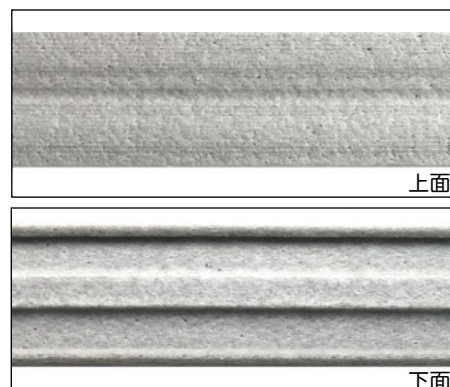


PEきずり

雨漏りを防止して、住宅を長持ちさせます！
当社独自の形状により、防水性能が格段にアップします！

- ✔ 厚みが3ミリでも底面に溝があるので、「水はけ」抜群！
- ✔ 素材自体の強度による補強効果により、つぶれやよじれが少ない！
- ✔ 上面に小さな凹凸があるので、瓦棧との接触面に侵入した雨水もすばやく乾燥！



1巻の長さ	50 m
1箱の入数	10巻
色	グレー
材質	ポリエチレン

*写真の色調は実物と異なります

【防水性】

底面に溝を形成してあるので、防水性能が格段にアップしています。素材のポリエチレンは、タッパーやラップに使われているように、吸水性がほとんどありません。また当社製品は独立発泡させているので、スポンジ等とは異なり、柔らかくても吸水性がありません。さらに、柔軟性を持つことでシール効果によって防水性能がアップしています。

【耐候性】

紫外線の当たらない屋根材の下に使用するので、変色や硬化などの経年変化はほとんどありません。耐薬品性に優れているため、酸性雨でも腐食、変質、溶解などありません。

【耐寒性】

低温時の機械的強度が特に優れています。寒冷地でも、硬くならず、割れるなどの心配はありません。

【施工性】

発泡ポリエチレンなので柔軟性があり施工がラクです。また機械的強度が優れており、よじれや釘打ちによるつぶれが少なく、引っ張りによる断裂等がほとんどありません。

【環境性】

地球環境にやさしいリサイクルされたポリエチレン樹脂を使用しています。ポリエチレンは焼却処分しても、二酸化炭素と水になるので、有害物質は発生しません。

取扱店

PEきずり

雨漏りを防止して、住宅を長持ちさせます！
当社独自の形状により、防水性能が格段にアップします！

1 雨漏りの原因と防止

雨漏りの原因にはいくつかありますが、その一つに、瓦の裏に侵入した雨水によるものがあります。

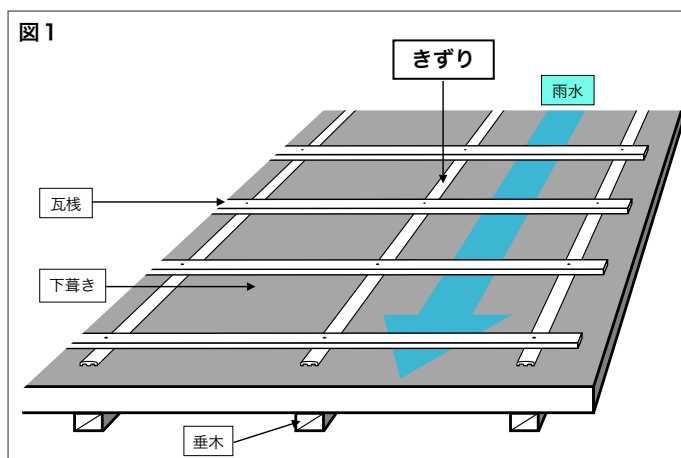
台風や大型低気圧による大雨、また梅雨時期の長雨などによって、瓦の下に水が侵入してしまう事があります。侵入した雨水は屋根の野地面に施工されている、防水用の下葺き材によって、屋根裏に侵入せず、屋根の軒先に向かって流れます。この時瓦を施工するのに必要な瓦棧と呼ばれる、屋根の横方向に設置された部材によって、せき止められてしまいます。この雨水は天気が回復しても、しばらくの間残ります。

瓦棧は、釘により、野地面の下にある垂木に施工されています。残った雨水は、毛細管現象により瓦棧の下に流れ、釘を伝って垂木を濡らしてしまいます。

この状態が長年続くと、野地や垂木、瓦棧や施工のための釘等が腐食して次第に侵入する雨水の量が増えて行きやがて雨漏りの原因となります。それだけではなく長年にわたり屋根裏に湿気を供給し、住宅の腐食、カビの発生などの問題を起こします。

「きずり」(別名 縦棧・流し棧)と呼ばれる部材は、瓦棧と、野地の間に空間を作るので、瓦の下に侵入した雨水が瓦棧でせき止められることを防ぎ、スムーズに軒先へと流して排水します。(図1)

こうして瓦裏の乾きが早くなり、野地板と瓦の間を常に環境の良い状態に保つため、瓦棧をはじめ、屋根面を腐食から守り、住宅の耐久性を高めます。



2 当社オリジナル形状による高い防水性能

日本で瓦が発達し普及した理由として、外国に比べて大雨の発生が多く、また梅雨と言う独特の長雨が影響しています。

欧米などで多く用いられている板状の屋根材は、毛細管現象により、屋根材と屋根面に水が侵入し、乾燥するのに時間が必要となります。しかし、大雨が連続せず、長雨も少ないので、大きな問題にはなりません。しかし、日本の気候では、なるべく早く屋根を乾燥させるために、屋根材と屋根面の間に空間を作る必要があります。また、屋根材同士も、多少の空間が必要となります。瓦同士の重ね部分にも、空間ができるように設計されています。日本の屋根の歴史は、毛細管現象との闘いとも言えるでしょう。

瓦の裏に侵入した雨水は、「きずり」によって軒先に流して素早く排水することができます。しかしながら、きずりと下葺きの間には、毛細管現象によって水が侵入しています。このため、きずりが木材の場合には、きずりそのものが腐食し、瓦棧の腐食も、完全に防ぐことができません。(図2-a)そしてやはり、瓦棧を垂木に設置するための釘を伝って、垂木を濡らしてしまうのです。どれほど、きずりの幅を増やしたとしても、また、粘着剤などでシール能力を増したとしても、毛細管現象を完全に防ぐことはできません。

当社の「PEきずり」は、耐候性の高い、ポリエチレンを使用していますので、腐食は発生しません。さらに、当社オリジナルの形状として、底面に溝を形成することにより、PEきずりと下葺き材との間に空間を作り、毛細管現象により、水が釘に到達するのを防ぎます。(図2-b)

また、PEきずりと瓦棧との接点も最低限になるように設計されているので、瓦棧の腐食も防ぐことが出来ます。

こうして防水性能を格段に高め、住宅全体を長く安全に保つ働きをします。

